

# キャリア教育は、どこで アクティブラーニングと出会うか？

—これまでの点検から、新たな創造へ—

児美川 孝一郎

KOMIKAWA, Koichiro

(法政大学 キャリアデザイン学部 教授)

# 今日の講演のポイント

キャリア教育

「学び」の  
重要性

何のため  
のAL？

アクティブラーニング

キャリア教育の側からのルートについて  
お話します

# 本日の話



1. キャリア教育は、どのように始まったのか？
2. キャリア教育の捉え方—誤解と真実
3. (付録)「俗流キャリア教育」実践の落とし穴
4. 新しい学習指導要領とキャリア教育
5. これからのキャリア教育のかたち



# 1. キャリア教育はどのように始まったのか？



# 失われた源流—1990年代における進路指導改革

- 「業者テスト・偏差値」排除から「生き方の進路指導」へ
- 文部省作成の指導資料における基本方針
  - ①学校選択の指導から、生き方の指導へ
  - ②「進学可能な」学校選択の指導から、「進学したい」学校選択の指導へ
  - ③100%の合格可能性に基づく指導から、生徒の意欲や努力を重視する指導へ
  - ④教師の選択決定から、生徒の選択決定へ



# 改革の背景



- 長年の受験競争システムの中で定着した「出口指導」の行き詰まり
- 「いい学校（大学）→いい就職→幸せな人生」図式の崩れ
- 過熱しすぎた「一元的競争」を、「多元的競争（進路分化）」へ
- 1990年代以降の労働市場の流動化，求められる労働力のフレキシビリティ化を見すえて



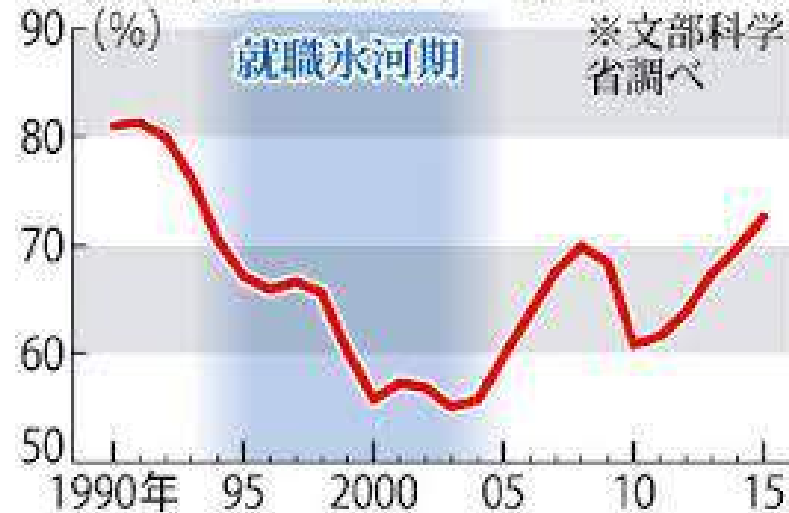
# 転轍—進路指導から若年雇用問題へ



中央教育審議会答申（1990年）

- 「今後の初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
- 二重の位置  
「接続」の改善として、進路指導改革の延長上？  
若年雇用問題の深刻化への対応として

大学卒業者の就職率の推移



# 中教審答申（1999）



## 第6章 学校教育と職業生活との接続

新規学卒者のフリーター志向が広がり、高等学校卒業生では、進学も就職もしていないことが明らかな者の占める割合が約9%に達し、また、新規学卒者の就職後3年以内の離職も、労働省の調査によれば、新規高卒生で約47%、新規大卒生で約32%に達している。こうした現象は、経済的な状況や労働市場の変化なども深く関係するため、どう評価するかは難しい問題であるが、学校教育と職業生活との接続に課題があることも確かである。

## 第1節 学校教育と職業生活の接続の改善のための具体的方策

学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。





# キャリア教育の登場



- 「若者自立・挑戦プラン」(2003年)  
フリーター対策をメインとした省庁横断的な若者政策  
内閣府, 経産省, 厚労省, 文部科学省
- その一環として文科省によるキャリア教育政策  
小中高を通じたキャリア教育の推進
- 「新キャリア教育プラン」(2004年)



# 若者自立・挑戦プラン（2003）



- |   |
|---|
| ①小学校段階からのキャリア教育の推進                      |
| ②「日本版デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）」の試行     |
| ③若者のキャリア高度化への取り組み（専門職大学院，21世紀COEプログラム等） |
| ④「若者自立塾」の開設（ニート支援）                      |
| ⑤相談活動等を通じた若者の就労支援（ジョブサポーターの活用等）         |
| ⑥「ジョブカフェ（若年者のためのワンストップサービスセンター）」の設置     |
| ⑦若者に対する能力評価を明確化するためのシステムづくり（YESプログラム等）  |
| ⑧創業・起業支援による若者の就業機会の創出                   |
| ⑨起業家教育の推進                               |
| ⑩「若年者トライアル雇用」の実施                        |





#

1999.12	中央教育審議会	「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
2002.11	国立教育政策研究所生徒指導研究センター	「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」
2003.6	若者自立・挑戦戦略会議	「若者自立・挑戦プラン」
2004.1	キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議	「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」
2005 年 度	文部科学省	中学校における「キャリア・スタート・ウィーク」「キャリア教育実施プロジェクト」実施
2005 年 度	経済産業省	「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」実施
2006.11	文部科学省	「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」
2006.11	高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議	「普通科におけるキャリア教育の推進」
2006.12		教育基本法改正
2008.3	文部科学省	「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」告示
2008.7		教育振興基本計画
2009.3	文部科学省	「高等学校学習指導要領」告示
2011.1	中央教育審議会	「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 (答申)
2013.6		第二期教育振興基本計画



## 2. キャリア教育の捉え方 — 誤解と真実



# 誤解に満ちた「キャリア教育」



- 学校は、また新しい課題を背負った？
- これまでの進路指導を言いかえただけ？
- 職業調べ、職場体験・インターンシップをやればいい？
- 勤労観・職業観の育成？
  
- 就職実績を伸ばすための教育？
  - 進学する生徒には関係ない？
  - 教科学習とは無関係？



# そもそも、キャリア教育とは？



- 「学校におけるあらゆる教育活動が、キャリア教育になるべき」  
(アメリカ連邦教育局長官マーランド, 1971年)
- 本来は、危機に立つ学校教育全体を創り直すというコンセプトだった！ (実践の領域ではなくて, 理念・視点)
- 1960年代のアメリカの中等教育, 何が危機だったのか？  
学校で学習する内容の陳腐化  
青少年の生き方への問いを素通り  
↓
- キャリア教育とは, ①学校での学びと社会, ②学校での学びと青少年の生き方, をつなぎ直すこと



# 日本版キャリア教育の不幸



- 日本において「キャリア教育」が登場したのは、若年雇用問題（就職難，フリーター，ニート，早期離職・・・）が深刻化し，社会問題化した時期
- 「キャリア教育」の理解が，職業や就労への準備，そのための「やりたいこと」探し，将来設計に偏った
- 端的に言って，基本となる教育哲学がなかった



# 当事者だって、語ってます！



- 創成期キャリア教育  
フリーター・ニート対策  
= 勤労観・職業観  
↓  
中学校職場体験  
↓  
教科を通じたキャリア教育

- “残像”にとらわれるべきではない



この10年をふり返る  
何ができて、  
何ができなかったのか

キャリア教育元年から10年、この間にできたこと、できなかったこと、キャリア教育を牽引してきた藤田晃之先生、児美川孝一郎先生に話を伺いました。

取材文 植木真一

—2008年から5年間、文部科学省でキャリア教育担当の調査官などを務め、施策の策定や普及に携わってきた藤田先生と、法政大学キャリアデザイン学部の元学部長で、キャリア教育に関する理解を深らしてきた児美川先生。役割は違っても、共通点が多いと思います。キャリア教育の10年を検証するにあたり、まずは同教育が果たしたポジティブな面からお聞かせください。

藤田 ▶ 基本的なことですが、キャリア教育という言葉に対する認識が広がったこと。そして、それを推進する学校が増えたことをまずあげたいと思います。定着するまでに10年ほどかかりましたが、キャリア教育の意義を

知ってもらい、取り組みが重要であり、その点上があったと思います。

児美川 ▶ 広まろうという感覚です。付け加えるなら、学校一化が進んでいるようにも思います。生徒を外に出すことや、生徒に外部の人間と接する機会も増えました。それ、全体として喜ばしいことだと思います。若い人が社会人とを展望することで、今は、はな、将来に開かれたら、自信を喪失した若者が見え始めています。

児美川 ▶ 僕は、生徒はもれ



# あらためてキャリア教育とは？



- 「キャリア発達の支援」「勤労観，職業観の育成」（調査研究協力者会議「報告書」，2004年）
- 「社会的・職業的自立」（中教審「答申」，2011年）
- 単刀直入に言ってしまえば，「将来への準備教育」
- 子どもたちの将来への準備，社会に出ていくことを意識して，学校教育を豊かにしていくこと





本来のキャリア教育



教育そのものを豊かにする



結果として  
就業にもつながる

俗流キャリア教育



直接的  
に就業につなげようとする



教育も豊かにならないし、就業にもつながらない



#

# もう少し噛み砕くと・・・



- キャリア教育 = 「将来への準備教育」



将来の生き方を考  
え，自分ごとにする



社会に漕ぎ出ていく  
ための力を獲得する

価値観・  
人生観

進路への  
見通し

基礎的・  
汎用的  
能力

専門性  
(自分  
の強み)

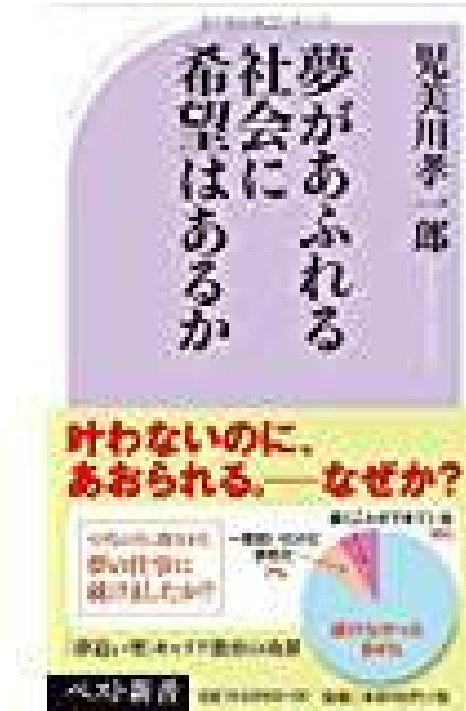
学ぶことの意味を理解し，主体的に学び，将来に備える



# 3. (付録)「俗流キャリア教育」実践の落とし穴



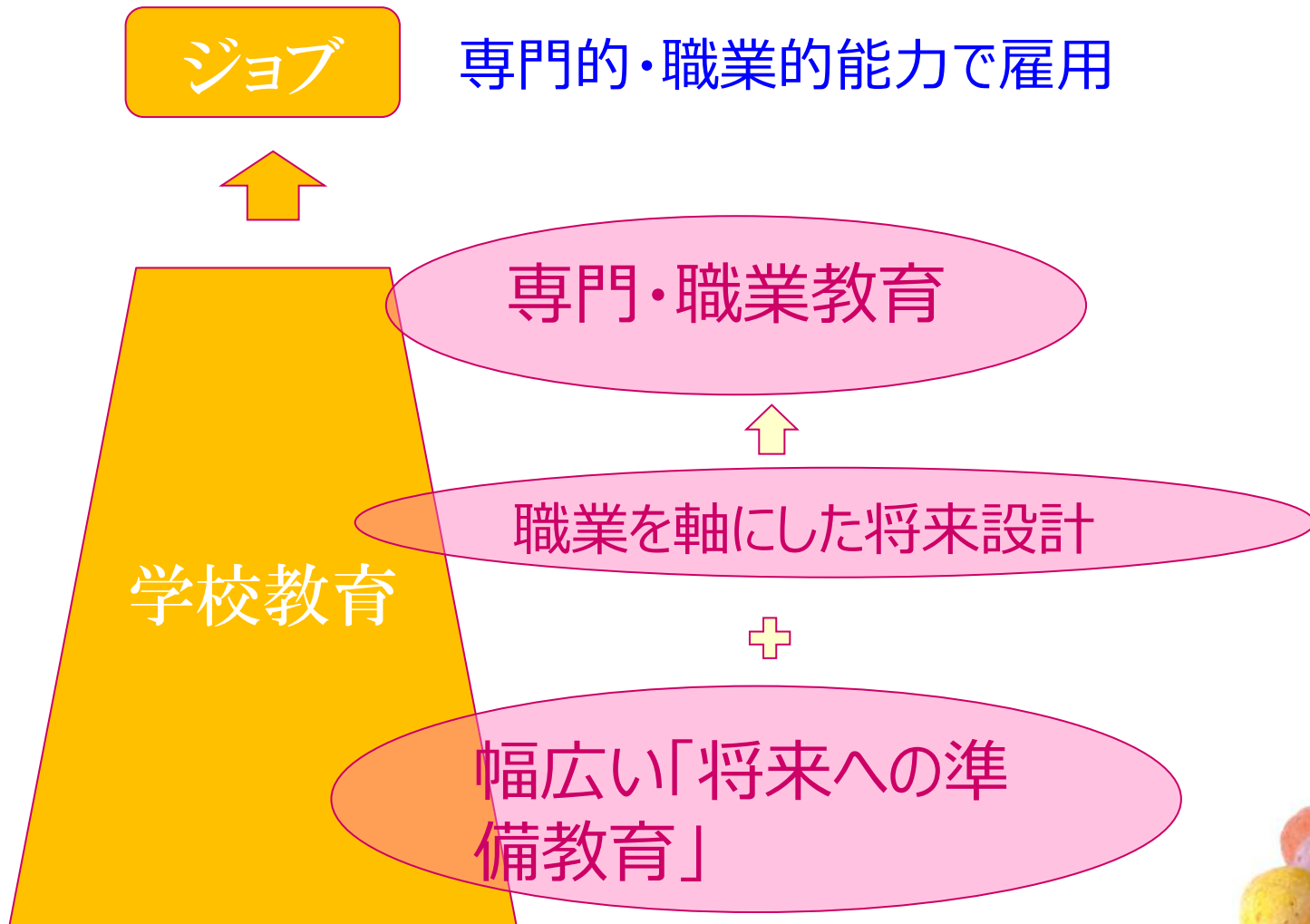
## 落とし穴① 「やりたいこと」主義の罠



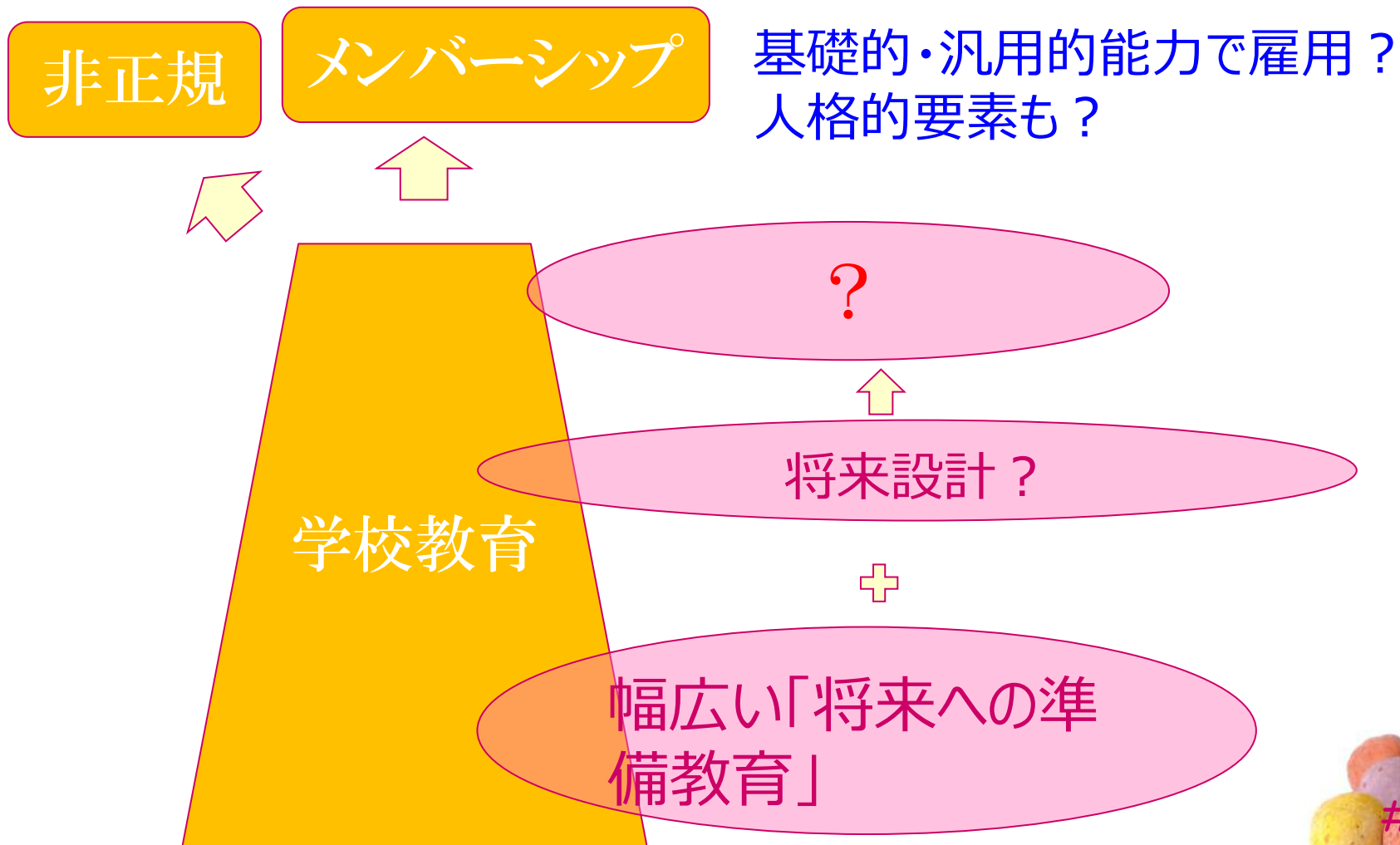
## 落とし穴② 職場体験・インターンシップ偏重



# 「ジョブ型雇用」の欧米における キャリア教育



# 「メンバーシップ型雇用」の日本におけるキャリア教育





落とし穴③ 世の中を見ないキャリアプラン

落とし穴④ 心理「主義」的なアプローチ

落とし穴⑤ 「正社員」主義

落とし穴⑥ イベント主義







# 4. 新しい学習指導要領 とキャリア教育



# 新学習指導要領におけるキャリア教育

- 現行の学習指導要領と比較して、明確な規定が与えられたことの意味！（逆に言うと・・・？）
- 中学校学習指導要領（2017年）  
第1章「総則」第4「生徒の発達の支援」1（3）
- 「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」



# 特別活動における位置づけ



- 中学校学習指導要領（2017年）  
第5章「特別活動」の「学級活動」2（3）
- 「一人一人のキャリア形成と自己実現」を柱に
- 具体的には、「社会生活，職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成」「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」「主体的な進路の選択と将来設計」を促す活動
- 「活動を記録し蓄積する教材等」の活用（＝キャリアパスポート）



# 各教科等における位置づけ



- 「学ぶことと自己の将来とのつながり」（総則）「主体的な学習態度」（特別活動）
- 「学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性に関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』」（「中学校学習指導要領解説」総則）
- 新学習指導要領においては，各教科等の学びそのものが，キャリア教育として位置づく  
→育成をめざす資質・能力の三つの柱



# 育成すべき資質・能力



学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

# どう読み解くか



- キャリア教育が、学校教育全体で取り組まれるべきであることは、大前提
- キャリアに関する学習や体験に焦点を当てた「狭義のキャリア教育」 → 特別活動を軸（「要」）に
- 直接にキャリアに関する学習や体験ではなくても、キャリア教育としての効果を持つ「広義のキャリア教育」 → 各教科等を含めて（「特質に応じて」）



# キャリア教育とアクティブラーニングの出会い

- 各教科等における学びが、キャリア教育にもなる
- つまり、「どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか」にまでせり上がるためには、そこでの学びは、アクティブラーニング以外ではありえない！
- 「主体的・対話的で深い学び」における「主体的」の意味！



# 留意点—指導要領が考える「よりよい人生」?

- 教育基本法の第1条（目的） 第2条（目標）
- 例えば、社会科の目標には、  
「我が国の国土や歴史に対する愛情」「自国を愛し、その  
平和と繁栄を図る」という文言も  
↑  
「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主  
的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能  
力の基礎」
- 公教育としての目標／判断・決定主体としての子ども  
→教科教育やキャリア教育を道徳教育化しない







# 5. これからのキャリア教育のかたち



# これまでのキャリア教育

職場体験・インターンシップ

夢（やりたいこと）

社会人講話

適性検査

職業調べ

ライフプラン



# これからのキャリア教育

授業を通じて



HR活動  
で

学校行事で

委員会活  
動を通して

節目には、キャリアに焦  
点を当てた学習・体験



# 基本的な方向性



- これまでのキャリア教育実践の問題点や落とし穴は克服しつつ
- <学ぶことと社会>をつなぎ、<学ぶことと生き方>をつなぎ直す
- 新しい学習指導要領の先取りは、高大接続改革への対応にも対応する  
←「大学入学共通テスト」「高校生のための学びの基礎診断」は、化けの皮が剥がれつつある？ 本丸は、各大学の個別入試（のはず）

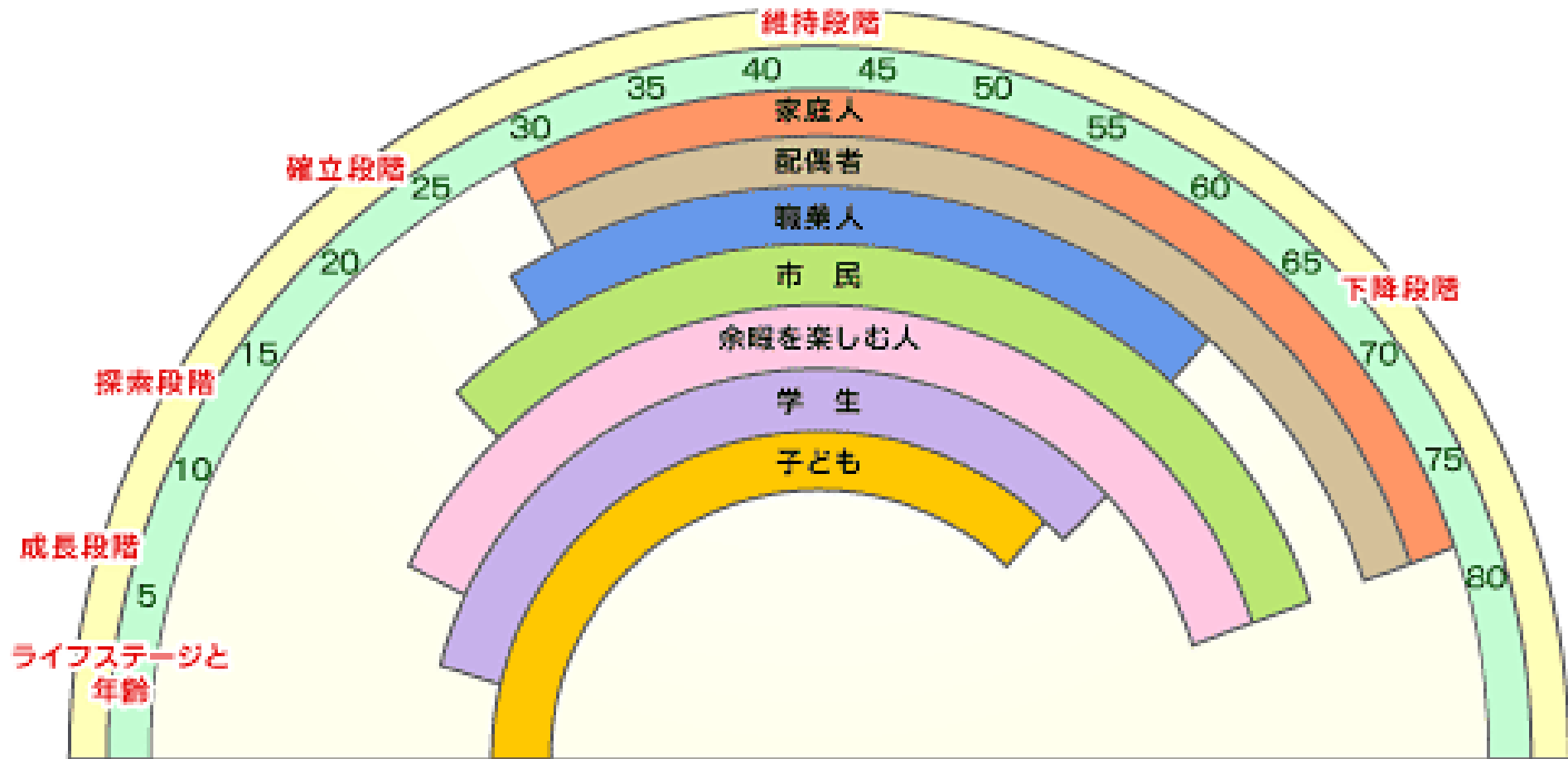


# 学校におけるキャリア教育の役割

- 学習者としての「役割」を自律的に遂行していく能力を培うことが、大前提
- ↓
- それが、その後の「働く者」「家族を営む者」「市民」・・・等々の「役割」を自律的に遂行していく能力形成の準備になる



# キャリア発達の課題



「キャリアレインボー」(D.E.スーパー)



# キャリア教育をどう進めるか



- 二段構えのキャリア教育
  - 広義～学校の教育課程全体が career education-oriented
  - 狭義～生徒に意識化・内在化させるためには、キャリアの学習・体験に焦点を当てた教育活動も
- 学校の「内」と「外」を“つなぐ”視点，教育課程の全体を“つなぐ”意識が大事
- 教師の役割は，実践者＋コーディネーター



# 実践的な強調点も移動



「キャリア形成から出発」→「社会的  
自立という土台づくり」

「イベント」型→「日常」型へ

職業や働くこと重視→ライフキャリア,  
学びを重視

「やりたいこと」や夢をどう実現するか→社  
会とかかわって、どう生きるか





ご清聴，ありがとうございます  
ございました

[komikawa@hosei.ac.jp](mailto:komikawa@hosei.ac.jp)  
<http://www.facebook.com/koic>  
hiro.komikawa

